

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成18年度病害虫発生予察情報について

このことについて、発生予察注意報第6号（コナジラミ類）を公表しましたので、送付します。

病害虫発生予察 注意報第6号

- 1 農作物名 トマト、ミニトマト、ナス、ピーマン、キュウリ、サヤインゲン、カボチャ
2 病害虫名 コナジラミ類（タバココナジラミ）

3 予報内容

- (1) 発生地域 県本土
(2) 発生量 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 10月下旬に実施した巡回調査では、露地野菜（サヤインゲン、カボチャ）、施設野菜（ナス、キュウリ、ピーマン）ともに発生ほ場率が高く、サヤインゲンやカボチャでは白化症が見られた。
(2) コナジラミ類は、トマト、ミニトマトに深刻な被害をもたらすトマト黄化葉巻病の媒介虫である。
(3) 一部の地域では、トマトの育苗ほどトマト黄化葉巻病の発生がみられている。
(4) 向こう1か月の天候は晴れの日が平年よりも多く、気温は高いと予報されており、今後も発生しやすい条件が続くと予想される。

表．コナジラミ類（タバココナジラミ）の発生ほ場率

作物名	本年	前年	平年
サヤインゲン (露地)	67	92	38
カボチャ (露地)	94	83	28
ナス (施設)	86	100	-
ピーマン (施設)	63	56	-
キュウリ (施設)	63	45	14

調査時期：10月下旬

5．防除上注意すべき事項

<トマト、ミニトマト>

- (1) 侵入を防止するため、施設の開口部には必ず防虫網を設置する（サイド0.8mm目合い以下、谷間1mm目合い以下）。
(2) 黄色粘着トラップを設置して早期発見に努め、トマト黄化葉巻病の感染を防ぐために徹底して防除する。
(3) 薬剤の効果が低い場合は、新しいタイプのコナジラミ（タバココナジラミ バイオタイプQ）の発生が考えられるので、有効な薬剤を散布する。
(4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
(5) ほ場周辺や施設内の雑草は、生息場所になるので除草する。

<ナス、ピーマン、キュウリ>

- (1) 多発するとすす病を併発するので、初期防除に努める。
(2) 他はトマト、ミニトマトの(3)～(5)に同じ。

<サヤインゲン、カボチャ>

- (1) サヤインゲンではすす病を併発するとともに、莢に白化症状を引き起こす。また、カボチャでは茎葉や果実に白化症状を引き起こすので、両作物とも初期防除に努める。
(2) 他はトマト、ミニトマトの(4)～(5)に同じ。